

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立玉島小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の特性に応じて話合いの視点を明確にし、児童自身が目的意識を持って話し合いを進め、自分の考えを深めたり、広げたりできるようになってきた。今年度は、学習形態の工夫に重点を置き、児童の思考力・判断力・表現力を高めていきたい。 ・玉島っ子アンケート等を有効活用し、個と集団のバランスに配慮し、思いやり・支え合い・感謝のハッピーサイクルをいかした集団作りを大切にしていきたい。 ・活動内容や環境設定を工夫することで、地域人材の活用やゲストティーチャーの来校など、地域との交流を少しずつ再開することができた。今年度は、従来の活動に戻すことにこだわらず、新しい形で地域学習や交流を模索し、地域のよさを活かした活動を考えていきたい。
2 学校教育目標	<p>“たくましく まごころいっぱい しっかり考え まなびあう” 子どもの育成 ～豊かでたくましい心と体の育成と確かな学力の定着をめざして～</p>
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内研究を中心に授業改善を進める。 ②集団づくりと特別支援教育の両視点から児童を育てる。 ③地域のよさ（ひと・もの・こと）を活かした豊かな体験活動を行う。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学級力アンケート「友達を支える力」「安心を生む力」の項目において肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・学級力アンケートを5回実施し、結果を目に見えらる形で児童へ返す等その活用方法について工夫する。 ・自問ノートや道徳ノートの児童の記述に価値を見出し、コメントを書く。 ・ここにこ集会(人権集会)を年間5回実施する。 ・縦割り活動の「レッツプレイ」に取り組み、体を動かす機会を増やす。	A	・ここにこ集会(人権集会)や平和集会を行い、児童が自ら考える場を持つことができた。 ・あゆっ子タイム(縦割り活動)やウォークラリー大会(学校をよくする活動)を行い、自主的に考えて活動する場を持つことができ、仲間意識を高めた。	A	・児童の学校診断アンケートにおける「友達に対して思いやりの気持ちをもてて接しているか」に肯定的な回答90%であった。 ・6年生あがりとう集会を行い、6年生や友達を思いやった活動ができた。 ・「自分自身に関すること」「人とのかわりに関すること」「集団や社会とのかわりに関すること」「生命や自然、崇高なものにかかわりに関すること」の4つについて、それぞれの学年において、学年に応じた道徳性の高まりがみられる。	A	・学級力アンケートを定期的にたどられて、担任の先生と児童が共に意識を高める取組はとてもいいと思った。 ・授業を中心に、日常生活を関連付けて思いやりの心を育てているところがよい。	道徳教育推進リーダー 特別活動部
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていますと回答した教員80%以上	・玉島っ子アンケートを2か月に1回実施し、児童の生活の問題点を把握、改善する。把握したことや児童の様子などから、毎月1回程度の生活打ち合わせや連絡会等で気になるところを共通理解を話し合うようにする。	A	・玉島っ子アンケートや生活打ち合わせを計画的に実施し、児童の生活の様子を全職員で共有した。玉島っ子アンケートでは、アンケートを取った後、担任による個人面談を行い、問題点があれば指導し改善した。生活打ち合わせでは、改善策を職員全体で考えることができた。	B	・人権教材「ジンちゃんケンちゃん」を使った授業を全学級で定期的に取り組んだ。 ・すべての児童と話し合いがたいが、たくましく まごころいっぱい しっかり考え 学び合う 子どもたちになってほしいと思う。 ・SO・SSW・外部関係機関と連携を取り、情報共有を図った。	A	・日ごろの観察や対話、アンケートなどで児童の困り感を感じたり早く把握しているところがよい。 ・いじめはどこにでも潜んでいるという気持ちで、児童の安全を確保してほしい。	人権・同和教育 生徒指導部 教育相談
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●週に3日以上、授業以外で運動や外遊びを行う児童が75%以上	・朝や15分休み、昼休みの外遊びを奨励する。	A	・「あゆっ子タイム」や「レッツプレイ」等の縦割り班活動や各学級の「学級レク」等で体を動かす機会をつくることを奨励してきた。また、スポーツテストや運動会、持久走記録会に向けて、自主的に練習に励む児童の姿がよく見られた。	A	・体育行事の充実や外遊びの奨励に対して、保護者・職員の10割、児童の8割以上がよくあてはまる「ややあてはまる」と回答した。 ・休み時間に多くの児童が運動場や遊具で体を動かす反面、図書室等の室内で過ごす児童の固定化も見られた。	A	・様々な環境が子どもの外遊びを阻害していることが気がかり。 ・持久走記録会や運動会などで子ども達が元気いっぱい運動する姿が見られてよかった。保護者や地域の人が子どもを応援していることが嬉しい。	保健部
●健康・体づくり	○「安全に関する資質・能力の育成」	○児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・事例研修などを適宜取り入れ、自分事意識や危機意識を高めておく。 ・安全教育は、地域の実情に合わせて行い、体験的学びと振り返りを大切に、自ら命を守ろうとする意識を高める。 ・複数目で安全点検を行い、未然防止に努める。	A	・交通安全教室・火災避難訓練・風水害避難訓練・地震津波避難訓練・不審者対応避難訓練を計画的に行うことで、自分事として命を守ろうとする当事者意識を高めた。11月現在、児童の交通事故は0(ゼロ)である。 ・危険箇所や不具合のある箇所については迅速に対応することで、未然防止に努めることができています。	A	・職員会議等で全ての避難訓練を見直し、自分事として捉えることの大切さを学んできた。今後は、地域の入に避難訓練を知らせるだけでなく、地域との合同訓練を実施していきたい。 ・1年間、児童の交通事故や大怪我を伴った校内事故はゼロであった。保護者や地域の見守り、職員の指導や安全点検に感謝している。	A	・学校では計画的に避難訓練や安全教育を進めていることが分かった。 ・春秋会で見守り指導を行っているが、子ども達はまとまって登下校している。玉島小の子は、挨拶を良くしてくれる。気になる様子があればすぐに学校に連絡したい。	生徒指導部 教頭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・金曜日に定時退勤日を設定する。 ・その日の退勤時刻を見通した働き方をしようを奨励し、平日18:30退勤を目指す。 ・定期的に共有フォルダーや教材を整理し、様式や資料の共有化を図り、効率的に業務を進める。 ・職員会議回数削減、会議のペーパーレス化等の業務改善を推進する。	A	・退勤時刻を意識して声を掛け、見通しを持って計画的に業務を行うような職員室の風土づくりを行っている。定時退勤日の金曜日は多くの職員が17:30を目途に退勤している。ただし、初任者への指導や支援は時間外にしかできないことも多く、今後の課題である。 ・職員会議のペーパーレス化を行うことができた。今後は、会議の精選と開催時間の工夫を推進していく。 ・共有フォルダーや職員室の棚、机上など定期的に整理する時間を週案に挙げて設定するなどして、業務の効率化を図りたい。	A	・学校訪問や研究発表会等、行事が多かった10月11月以外は、時間外業務が45時間以内の職員が大半を占め、職員は見通しを持って働く心がけられている。 ・業務改善委員会を開設し、放課後の時間を確保するために校時表や授業の連時数を見直し改善することができた。保護者にも理解していただくことができた。 ・ICTの効果的活用や積極的な自主研修を通して、職員自身が業務の効率化を意欲した働き方を工夫している。	A	・働き方を工夫することで、子どもを支える教職員の健康や精神的な安定を保ってほしい。 ・複式学級が増えるということなので先生方も大変だと思うが、どうか工夫して頑張ってください。 ・業務改善をすることが、子どもたちのためになると思うので、できることからどんどんやってほしい。	教頭 教務 事務主査

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員70%以上	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・伸びっ子研・ケース会議・支援会議等の開催、情報共有をすすめる。	B	・夏休みに、校内に関わる支援内容での研修会を行った。支援的な児童の理解や、支援の対応策について話し合いがもたれた。 ・伸びっ子研については、一学期にうまく回らなかったため、二学期以降、定期開催ができるように調整している。 ・各クラスにいる児童の不応への相談等の対応をしながら、学校全体支援的な意識を高めていく。	B	・夏休みの研修や、音読から配慮を要する児童についての意見交換を行うことで全職員の支援への理解が深まった。 ・伸びっ子研の定期開催については、来年度の検討事項にして開催しやすい方法を検討する。 ・学校評価アンケートでは、全職員の70%以上が専門性が向上したと回答した。	A	・一人ひとりの特性をよく理解し、担任だけでなく、学校全体で支え、伸ばしていくことのできる大切さが本校の取組から伝わってくる。	
○開かれた学校づくり	○保護者・地域との連携	○地域人材を活用した生活科・社会科・総合的な学習の時間(玉島小)を年間1回以上全クラスで実施	・玉島小で、全クラスで地域人材を活用する。 ・学校での学びを発信し、地域の関心を取り込んでいく。 ・サークルクラブのより良い活用方法を探っていく。	B	・校区民運動会にはできなかったものの、希望する児童の家族や区長様に参加していただくことができた。また、歴代会長会を開催して、学校の様子を伝えることができた。 ・1・2年の生活科での野菜作り、3年の総合的な学習でのみかん作りと玉島川の鮎についての学習、4年生の総合的な学習の時間での福祉学習など、地域人材を活用することができた。 ・サークル活動には、4年生以上が参加し、手芸と囲碁、ゲートボールクラブを楽しんでいる。	A	・サークル活動には、4年生以上が参加し、地域の指導者の下、囲碁、手芸、ゲートボールクラブを楽しむことができた。 ・11月以降は、5年生が地域の農業(ねぎ、玉ねぎ、みかん)について保護者に講師になってもらい、現地でも農業体験をするなどして学ぶことができた。来年度も、生活科や総合的な学習の時間を中心に、積極的に地域学習に取り組んでいきたい。 ・定期的に実施していただく学校評価アンケートや主任児童委員、様々な会を通して話し合う機会を持つことができた区長や学校長や地域の老人会の皆さんに学校の現状をお伝えできた。それらの皆さんに協力していただき、地域ボランティアの発掘や学びの発信などをしていきたい。	A	・農業体験など地域のよさを感じる取組が復活してよかった。どんどんやってほしい。 ・ゲストティーチャーや保護者のボランティア等の活用が増えたことで、さらに活用してほしい。	教頭・教務
○小小連携、小中連携の推進	○9か年の学びを念頭に置いた、小小連携、小中連携の推進。	○浜玉中学校区での体験活動や授業公開等を実施する。(合同体験1回、授業公開1回以上)	・中学校区で共通目標を設定し、実践を行い、評価・改善していく。	A	・浜玉中学校区各校において公開授業を実施し、職員による授業参観を実施した。また、小中連携三部会を開催し、意見交換を行った。 ・中学1年生と小学6年生参加の虹の松原ボランティア清掃活動は11月30日に実施予定である。	A	・浜玉中学校区における小中連携会を通して、互いの実践についての交流を図ることができた。また、中学1年生と小学6年生参加の虹の松原ボランティア清掃活動も実践できた。	A	・それぞれの学校のよさを大切にした連携を進めてほしい。 ・サークルクラブだけでなく、様々な行事を通して連携していくことを期待する。	教務

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内研究を中心に、学習の仕方を児童自身が選択調整し、友だちと協働しながら思考・判断・表現していく活動を取り入れた授業実践を進め、普段の授業を大切にすることで授業改善を目指した。特に、学習形態の工夫に重点を置き、学習用タブレット端末を活用して思考・判断・表現ができる教材づくりをしたり、自力学習・ペア学習・グループ学習の時間を効果的に授業に取り入れたら、児童の思考力・判断力・表現力を高めてきた。その結果、学習状況調査や各単元テストからも学力の向上が見られ、各教科以外の特別活動からも児童の思考力・判断力・表現力の高まりが感じられた。 ・伸びっ子研やケース会議、生活打ち合せ、支援会議等を定期的、また機を逃さず行うことで、児童一人ひとりについて全職員で情報共有しながら支援を行ってきた。また、支援計画、支援内容、支援体制等を定期的に見直し、担任との情報共有を行い、より効果的な支援をするために工夫してきた。玉島っ子アンケートを定期的に行い、それをもとに1人一人と面談を行うことで、児童の困り感や悩みをいち早く寄り添ったり、頑張りやに賞賛の声をかけたりすることができた。また、学級力アンケートやQURASで客観的に学級集団に対する満足度や生活意欲度を見るなどして現状を把握し、教師と共に主体的に学級集団を高めていくことができた。今後も、思いやり・支え合い・感謝のハッピーサイクルを大切に集団づくりをしていきたい。 ・コロナ禍後、地域人材の活用やゲストティーチャーの来校など、地域との交流を図ったり、専門的知識や技能をもつ人を講師とした体験学習を実施したりするなど、積極的に児童の学びの幅を広げることができた。次年度は、さらに新しい地域人材や地域素材の発掘を進め、地域のよさを活かした活動を仕組み、その学びを発信していきたい。</p>
----------------	--